

第1章

事業の総括評価

趣 旨
評価結果
総括評価

事業の総括評価

令和5年度 日本・韓国青年親善交流事業

I 趣旨

日本・韓国青年親善交流事業は、昭和62（1987）年度に開始され、本年度は34回目の実施となった。

本事業は、日本と韓国の青年相互の理解と友好の促進を図ることを目的とし、日本政府と韓国政府の共同事業として名称のとおり両国の友好の象徴として実施しているものである。

また、日本青年の育成の観点から、内閣府青年国際交流事業の共通の目的は「世界各国の青年との交流を通じて相互の理解と友好を促進し、国際的視野を広げ、国際協調の精神をかん養し、次代を担うにふさわしい青年を育成する」ことであり、事業参加によりコミュニケーション力や異文化対応力等の能力向上が図られることをねらいとしている。

以上の目的を達成するため、日本及び韓国の双方において、国家及び地方行政組織への表敬訪問両国青年によ

る合宿型ディスカッションプログラム、首都に加え複数の地方都市における地元青年との交流やホームステイ、産業、文化、教育施設の訪問等、人的交流の重視を基本としつつ、毎年見直しを行っている。

今回、本年度事業の成果を測るため、日本参加青年及び韓国招へい青年全員を対象として事業終了時にアンケート評価を行うとともに、日本参加青年に対しては、事前研修時と帰国後研修時に、能力向上に関する自己評価の変化について比較調査を行った。

事業終了時のアンケート評価の数値基準は、5段階評価（評価の高い方から5～1）を基本とした。また、日本青年の自己評価の変化に関する比較調査については、他の調査との比較の観点から6段階評価（評価の高い方から6～1）を基本とした。

※参加青年に対して行った5段階評価のアンケートの詳細については「第4章 資料編」参照。

II 評価結果

1. 事業目的の達成度

①日本と韓国の相互理解の促進

<日本参加青年>

「この事業を通じて、あなたと韓国の人々との相互理解が深まったと思いますか[1-(7)]」との問いに対して、日本参加青年は92%が5段階評価の4（深まったと思う）以上を付け、極めて高い評価であった。

日本参加青年からは「対面のコミュニケーションを通じ、イメージではなく知識として吸収し、理解できた。」「文化発表や交流を通じて、互いに抱いていた偏見を改めるきっかけになった。」等の感想があった。

<韓国招へい青年>

「この事業を通じて、あなたと日本の人々との相互理解が深まったと思いますか[1-(6)]」との問いに対して、韓国招へい青年は96%が5段階評価の4（深まったと思う）以上を付け、極めて高い評価であった。

韓国招へい青年からは「多様なディスカッションを通じて理解を互いに深めることができた。」「日韓青年親善交流のつどいにおけるディスカッションで社会問題について議論しながら、似ているようで異なる点が多くあ

ることに気付くことができた。」等の感想があった。

②日本と韓国の友好の促進

<日本参加青年>

「この事業を通じて、あなたと韓国の人々との友好が深まったと思いますか[1-(8)]」との問いに対して、日本参加青年は全員が5段階評価の4（深まったと思う）以上を付け、極めて高い評価であった。

日本参加青年からは「1泊2日を共に過ごす中で関係を深められた。」「気軽に連絡できる韓国の友人ができた。」等の感想があった。

<韓国招へい青年>

「この事業を通じて、あなたと日本の人々との友好が深まったと思いますか[1-(7)]」との問いに対して、韓国招へい青年は96%が5段階評価の4（深まったと思う）以上を付け、極めて高い評価であった。

韓国招へい青年からは「言葉や文化の壁を越えて友達になれた。」「インターネット等のメディアだけでは生まれにくい友情や関係性を、一緒に過ごし経験を共有する中で築けた。」等の感想があった。

③プログラムへの満足度

<日本参加青年>

訪問国プログラムの内容についての全体評価[2-(1)]は、日本参加青年は全員が5段階評価の4（良かった）以上を付け、極めて高い評価であった。

プログラム別に見ると、「地元青年との交流[2-(4)]」に17名、「施設訪問 [2-(5)-1]」に12名が5段階評価の5（大変良かった）を付け、比較的高い評価であった。

「地元青年との交流」の評価が高かった理由としては、「あなたは、なぜこの事業に参加したのですか（複数回答可）[1-(1)]」との問いに対して、21名の日本青年が「韓国の人たちと人脈を築いたり、友人となったりするため」と答えていることから、韓国人の友人を作るきっかけとなったからであると考察できる。また、同様の問いに21名の日本青年が「韓国の社会事情、文化等に関心があるため」と答えていることから、多様な施設訪問を通じて多角的に韓国の社会事情を学ぶことができたことが、「施設訪問」の評価が高くなった理由として考察できる。

印象に残った主な訪問先として最も多かった回答は「韓半島統一未来センター」であった。日本参加青年からは「南北が統一された後の世界をVRで体験し、朝鮮半島全体がどう変動し、世界にどのような影響をもたらすか等を考えることができた。」「普段慣れ親しんでいる韓国とは全く異なる側面から学ぶことのできる良い機会であった。」という感想があり、知らなかった韓国の一面を学び、実際に訪れたからこそ得られる経験があったことがうかがえる。次に回答が多かった「河回村」については、「伝統ある村での生活を見学し、歴史に触れられた一方で、観光地化による問題を目の当たりにし、考えさせられた。」等の感想があり、韓国の歴史や文化を学ぶだけでなく、社会が抱える問題への気付きがあったことがうかがえる。

<韓国招へい青年>

招へいプログラムの内容についての全体評価[2-(1)]は、韓国招へい青年は全員が5段階評価の4（良かった）以上を付け、極めて高い評価であった。

プログラム別に見ると、「日韓青年親善交流のつどい

[2-(5)]」に22名、「課題別視察[2-(5)]」が18名、「青森県プログラム[2-(9)]」に17名が5段階評価の5（大変良かった）を付け、比較的高い評価であった。

「日韓青年親善交流のつどい」の評価が高かった理由としては、「あなたは、なぜこの事業に参加したのですか（複数回答可）[1-(1)]」との問いに対して、21名の韓国青年が「日本の人たちと人脈を築いたり、友人となったりするため」と答えていることから、ディスカッションや両国文化紹介等で構成され、日本青年と2泊3日を共に過ごしたことで、日本人の友人を作るきっかけとなったからであると考察できる。

「青森県プログラム」については、ホームステイに関するコメントが多く寄せられ、日本滞在中に最も印象に残ったことにホームステイと答える韓国招へい青年も多く見られた。ホームステイを通じ、観光ではあまり触れられない一般家庭の日常生活を垣間見ることができ、日本の社会事情や文化等に対する理解を深めるきっかけになったからであると考えられる。

④事業参加による参加青年の将来への影響

<日本参加青年>

「この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか[1-(10)-1]」との問いに対して、日本参加青年は全員が5段階評価の4（役立つと思う）以上を付け、極めて高い評価であった。また、そのうち68%が5（とても役立つと思う）であった。

<韓国招へい青年>

「この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか[1-(8)]」との問いに対して、韓国招へい青年は全員が5段階評価の4（役立つと思う）以上を付け、極めて高い評価であった。また、そのうち77%が5（とても役立つと思う）であった。

これらの評価から、本事業が参加青年の将来形成に大きく役立つことが考察できる。

2. 日本参加青年の成長

①個人の能力の向上

本事業の日本参加青年に対し、事前研修時と帰国後研修時での能力の成長の変化について6段階（6＝十分備えている、5＝備えている、4＝ある程度備えている、3＝あまり備えていない、2＝備えていない、1＝全く備えていない）による比較調査を行ったところ、次のような結果になった。

「コミュニケーション能力」は、

4.3から4.9となり、0.6ポイントの増。

「多文化に対応する適応能力」は、

4.5から5.5となり、1.0ポイントの増。

「チャレンジ精神」は、

4.6から5.1となり、0.5ポイントの増。

「ディスカッションを通じた問題解決能力」は、

4.1から4.7となり、0.6ポイントの増。

「企画力」は、

3.9から4.5となり、0.6ポイントの増。

「マネジメント力」は、

3.6から4.5となり、0.9ポイントの増。

(ポイント数については、小数第二位を四捨五入)

伸び幅が最も大きかったのは「多文化に対応する適応能力」であった。これは、訪問国活動において、韓国青年との交流や施設訪問等を経験し、様々な韓国人との直接的な交流の機会を得たことで、異なる習慣や考え方に対応する能力に大きな影響を与えたと考察できる。

次に伸び幅が大きかったのは「マネジメント力」であった。参加青年は、研修や訪問国活動を通じて、団の目標やディスカッションテーマ、日本文化紹介の内容を検討し、また、集団行動の中で様々な意見を一つにまとめていく機会が多くあり、それらの経験が大きく影響を与えたと考察できる。

また、団として様々な課題に取り組んだ経験が「ディスカッションを通じた問題解決能力」の向上にも見るこ

とができる。

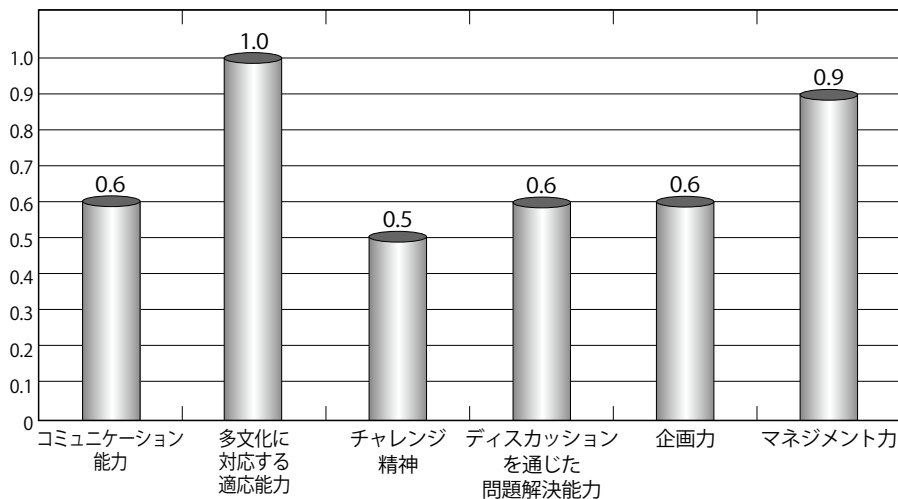
上記以外の全ての項目においてポイントの増加が見られ、本事業参加によって参加青年が自らの成長を自覚していることが分かる。

②社会貢献活動への意欲

「事業参加を通じて、社会貢献活動を始めたい、参加したいという意欲等を持ちましたか[1-(9)]」との問いに対して、日本参加青年は92%が5段階評価の4（ある程度意欲を持った）以上を付け、極めて高い評価であった。

一方、5段階評価の3（どちらでもない）や2（ある程度関心を持つようになった）と付けた日本参加青年もいた。「今回のプログラムでは社会貢献に焦点をあてた活動はなかったように思う。」という感想もあり、本事業の参加を通じて社会貢献活動への意欲を大きく向上させるには、引き続きプログラム内容に検討の余地があると考えられる。

事業実施前後の能力向上に関する自己評価の増減（ポイント）



3. 韓国招へい青年の成果

①日本に対する印象の変化

「この事業に参加して日本に対する印象は変わりましたか[3-(1)]」の問いに対して、韓国招へい青年は92%が5段階評価の4（良くなった）以上を付け、極めて高い評価であった。また、その他の韓国招へい青年は3（変わらない）を付けており、「元々とても好きだったから。」という感想からも、日本に対して好意的なイメージを持つ青年が多いことが分かる。

②事業に参加して得た成果

「この事業からどのような成果を得ましたか（複数回

答可）[1-(4)]」の問いに対して、韓国招へい青年の96%が「日本の社会事情や日本の文化について理解を深めることができた」を選択した。また、85%が「人脈を拡大したり、多くの友人を得たりすることができた」を選択している。

③事業参加が将来に役立つと思うか

「この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか[1-(8)]」の問いに対して、韓国招へい青年は全員が5段階評価の4（役立つと思う）以上を付け、極めて高い評価であった。

これらの評価からも、本事業が日本に対する理解の

促進を図るだけでなく、交流プログラム等を通じて多くの友人を作ることができるプログラムであり、韓国招へい青年はそれを成果として捉えていることが分かる。また、個人の将来にも良い影響を与えると受け止めていることも分かる。

Ⅲ 総括評価

最後に、アンケートの総合評価を含めて、今回の総括評価をまとめる。

<日本参加青年>

「事業全体をどのように総合評価しますか[1-(2)]」との問いに対して、日本参加青年は全員が5段階評価の4（良かった）以上を付け、そのうち80%が5（大変良かった）であり、高い評価であった。

<韓国招へい青年>

「この事業をどのように総合評価しますか[1-(2)]」という問いに対して、韓国招へい青年は全員が5段階評価の4（良かった）以上を付け、そのうち92%が5（大変良かった）であり、極めて高い評価であった。

日本参加青年からは「旅行では経験できない様々なプログラムを経験し、韓国をより深く理解できた。」「韓国の友人だけではなく、日本の団員同士の仲が深まり、コミュニティが広がった。」等の感想があり、韓国への

理解を深めるだけでなく、自身の人脈を広げる機会になったという評価が多く見られた。

韓国招へい青年からは「旅行では経験できない多様なプログラムを通じて日韓両国の人と交流できるかけがえのない時間だった。」「多様なテーマについて日本各地でどう取り組んでいるかを学ぶことができ、韓国に対しても考えるきっかけになった。」等の感想があり、日本への理解を深めることができるプログラム内容と多様な人との交流の機会を評価していることが分かる。

以上の結果から、両国の参加青年が事業全体を極めて高く評価していることが分かる。また、「両国青年相互の理解と友好の促進を図る」という本事業の目的に対して、本年度も十分な成果を収めたものと評価することができる。

両国の参加青年は、今後それぞれの道を歩み始める。両国に直接関係する分野に進むとは限らないが、事業を通じて得た学びや経験、人脈をいかしながら、それぞれの道で活躍することを期待している。